



神奈川大学みなとみらいキャンパス図書館(エントランス)

## CONTENTS

●みなとみらい図書館がオープンしました！	2頁
●新図書館長からのメッセージ「図書館と私」	
平塚図書館長 桑原 恒夫 教授	4頁
●2022年4月オープン！横浜キャンパス新図書館について	5頁
●横浜キャンパス 3号館仮設図書館のご紹介	6頁
●図書館の所蔵資料紹介「医療の発展と歴史」	7頁
●図書館からのお知らせ 今号の表紙／編集後記	8頁



## みなとみらい図書館がオープンしました！



2021年4月、神奈川大学みなとみらいキャンパスに、横浜図書館、平塚図書館に続く三館目の図書館としてみなとみらい図書館がオープンしました。

みなとみらい図書館は、21階建ての都市型高層キャンパスであるみなとみらいキャンパスの2・3階に「知の拠点」の中心となるべく設置されました。みなとみらいキャンパスに移転した経営学部、外国語学部、国際日本学部のカリキュラムに関連する図書を中心に横浜・平塚図書館から移設し、現在約12万冊の図書を所蔵しています。

みなとみらいキャンパスは2・3階にある図書館のみならず、低層部に位置するソーシャルコモンズ、特に1階から図書館へ続く吹き抜け部分にあるナレッジコアや、各フロアに位置するラーニングコモンズにも各フロアコンセプトに合った図書館資料を配架し、学びながら必要な図書にすぐにアクセスできる環境を整えています。

今回ここでは図書館資料を配架している主要フロア3か所をご紹介します。

### ■図書館（2階）

図書館のメインカウンターやグループ学習エリアのあるこのフロアには、新着図書をはじめ新聞雑誌といった逐次刊行物、参考図書（和書）、大型本、分類番号0・1・2門の一般和書を配架しています。それ以外にも英語の多読書、中国語絵本等の資料があります。



### ■図書館（3階）



3階は2階が動のフロアに対して静のフロアとし、サイレントルームも設置しています。社会科学・自然科学・芸術・言語・文学関係の和書を固定書架に配架しています。2階から吹き抜けの階段を上っ

た先にはブックタワーを囲むように書架を設置した特徴的なエリアがあります。勉強の合間の気分転換、煮詰まった際に頭を切り替えるエリアとして、海外の写真集や手塚治虫のマンガ等の図書を配架しています。3階には電動の集密書架があり、和書・洋書が配架されています。この集密書架は自由に動かして利用できます。

## ■1階ナレッジコア



ナレッジコアを囲む形で高書架を設置し、現在約 3,000 冊の図書を配架しています。ここに配架している図書はみなとみらいキャンパスでの学びを体現する図書、例えばクールジャパンとして日本文化をはじめとするコミックやアニメ、ゲーム等、また日本および海外の観光ガイド、SDGs、地元神奈川・横浜に関する資料を1階ソーシャルcommonsに設置されているグローバルラウンジや観光ラウンジ等の施設とリンクさせながらテーマ別に配架しています。ここに配架している資料も貸出ができます。

なお、みなとみらい図書館では、キャンパス内に自動貸出機を設置するとともに、日本の大学図書館で初めてとなるスマートフォンアプリを使用した図書の貸出サービスを行っています。つまり高層階に配架している資料を借りる場合、貸出手続きのために図書館2階のカウンターに行く必要がありません。貸出サービスを省力化することで、各学部の相談業務に特化した「リエゾン・ライブラリアン」を配置し、学修支援の強化を目指しています。



皆様のご来館をお待ちしております！

### 図書館と私

平塚図書館長 桑原 恒夫



私が初めて図書館を利用したのは、多分皆さんと同じ、小学校に入学後の事でした。小学1年か2年の時、それまでも家の絵本か何かで読んでいた「ガリバー旅行記」を学校の図書館で見つけました。当時の「ガリバー旅行記」の子供向けの本は、普通は「小人の国」と「巨人の国」しかありませんでした。しかし何かで「馬の国」もあると知っていた私は、その時図書館で見つけた「ガリバー旅行記」に「馬の国」が収録されていることを発見して歓声を上げ、先生に注意されたことを覚えています。

その後、4～5年生の時には冒険小説に夢中になりました。「海底二万マイル」とか「三銃士」とかです。毎週1時間だけある読書の時間に1冊ずつ読み、時間内には読み切れないので家に借りて帰りました。帰宅途中、待ちきれないで本を読みながら歩いていたこともあります。今の「歩きスマホ」の様なものです。当時は交通量が少なかったとはいえ、今思うと危ない事をしたものです。

私の研究生活に転機をもたらしたのも図書館でした。私は以前、民間の研究所に勤めていました。それまで通信用ハードウェアの開発が仕事だったのですが、時代の流れでそのような開発がもう必要でなくなりました。私は次の研究テーマを考えなくてはいけなくなりました。上司は自分で考えろと言う方針です。しかしこれはとてもありがたいことでした。意に沿わないテーマを押し付けられなかったという事と、研究テーマの開拓力を磨けたという事は、2重の意味で私には幸運でした。しかし当時の私は本当に悶え苦しみました。その苦しみの中で、私は図書館で学会の研究会資料を片端から読んでいきました。学会には色々な分野の研究会が数十とあります。それらは今までの私の専門と違うので、暗中模索の作業でした。その中で、これはと思う分野が見つかりました。それが今の専門である **e-learning** に繋がる教育工学です。今までの仕事内容とは全く違い、その分野で何の実績もない私が教育工学に関する研究を企業内で行なうのには軋轢もありました。しかし上司の温かいご理解を支えに、実用に供する **e-learning** のシステム開発をなんとかやり遂げました。今に至る研究の方向性を決定したのは、まさにあの時の図書館での一人孤独な研究会資料の読み漁りでした。

今はインターネットの時代です。googleなどの検索エンジンを利用すれば、知りたいことは何でも出てきます。今の図書館もちろん様々なIT技術を取り入れており、必要な研究論文の探索なども容易に行えます。しかし検索だけでは用をなさない場合もあります。上に述べた私の教育工学との出会いは、あてもなく図書館内の資料を読み歩いたからこそその賜物です。それは「検索」というより「探索」、「発見」そして「創造」へと繋がる行動です。「知の創造」へ繋がる「場の提供」、これこそが図書館が果たすべき大きな役割なのではないでしょうか。そのために図書館は何をすべきなのか、平塚図書館長の就任に当たり、それをこれから皆さんと一緒に考えていきたいと存じています。

※桑原館長は金谷前館長のみなとみらいキャンパス移籍に伴い、4月1日にご就任いただきました。



## 2022年4月オープン！ 横浜キャンパス新図書館について



現在工事中の横浜図書館は2022年4月にリニューアルオープンの予定です。新しくなる図書館は新たな知のコミュニケーションが生まれる場所として、より使いやすく時代の先端を行く学びの場所として生まれ変わります。今回は改修後の横浜キャンパス新図書館を紹介します。

今回改修工事を行っている場所は、地下書庫を除いた地上階部分です。新しい図書館はフロア構成をB1～3Fから1F～4Fに変更し、1階がラーニングcommonsといった動のエリアになるのに対して、上層階に行くほど静のエリアになる設計となっています。新たに生まれ変わる各フロアについてご紹介いたします。



新図書館イメージ

### ■ 1階

1階は思う存分グループ学習ができる広大なラーニングcommonsに生まれ変わります。23号館側にはテラス席、公道沿いには大きな窓が新たに設置され、エリアを区切る開放的なプレゼンフィールドを設置します。中庭を開放し、ラーニングcommonsから外に出られるようにします。またカフェスペースやファブスペースを設置し長時間の滞在も可能な、様々なニーズに対応できるフロアになる予定です。

### ■ 2階

2階から4階までの吹き抜けが誕生し、そこには新図書館を象徴するブックウォールが設置されます。また23号館への坂からの出入口がメイン出入口として新たに設けられます。入口を入ってすぐのところにはワンストップ型の総合カウンターを設置します。このフロアには逐次刊行物や相談カウンターで利用する資料を配架する予定です。展示スペースも設けます。

### ■ 3階

3階は主に一般図書館の書架と閲覧席を設置します。書架の中に閲覧席があるような、資料に囲まれた空間に生まれ変わります。

### ■ 4階

4階にはサイレントエリアを設置し、個人でより集中して学修に取り組める環境を整えます。今まで書架がほぼなかったフロアですが、新図書館では3階同様、一般図書館を配架する書架を設置します。

2022年オープンの新図書館をどうぞお楽しみに！

## 横浜キャンパス 3号館仮設図書館のご紹介



現在、15号館横浜図書館は改修工事のため、2022年4月のリニューアルオープンまでの一年間仮設図書館として3号館に引っ越しをしています。利用者の皆様にはご不便をおかけしておりますが様々な工夫をして一年間なるべく不便のないように運営していきたいと考えております。現在、図書館の仮住まいになっている「3号館仮設図書館」について紹介いたします。



3号館

### 図書館エリア…1階展示ホール

…3-203 (学生用PC室)

…3-206、207、208、209  
(事務室)

### 開館時間

授業日…8:50~20:30

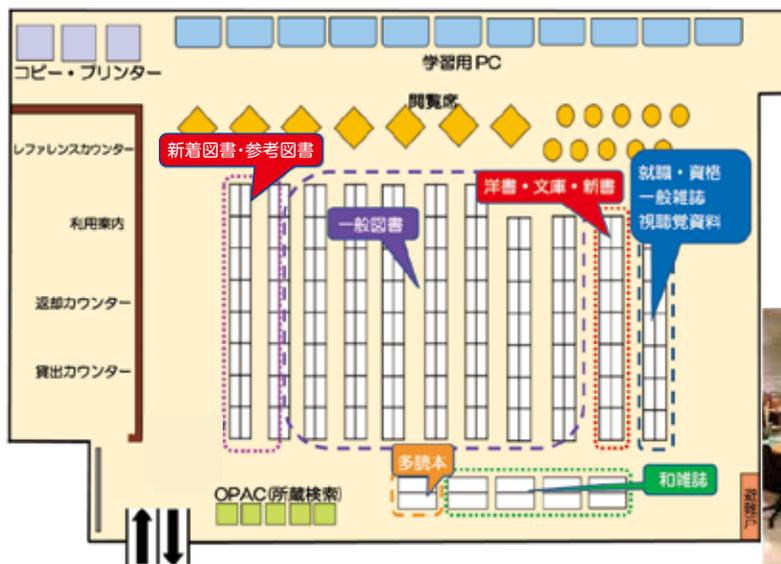
夏季休業期間…9:30~18:00

日曜、祝日(授業日を除く)は休館

※開館時間等については変更される場合があります。詳しくはHPにてご確認ください

### 1階 展示ホール (仮設図書館メインエリア)

仮設図書館では和書約2万冊、洋書約800冊が配架され雑誌、参考図書、視聴覚資料の利用も可能になっています。図書館の機能をコンパクトにまとめたフロアになっており、閲覧席はオープンで心地よい場所になっています。現在工事中の15号館図書館にある資料はこちらで申し込めば利用ができ、また、ILLなどのレファレンスサービスも従来と変わらず行っております。



仮住まいではありますが感染対策などにも取り組みつつ運営してまいります。リニューアルオープンまでの一年間、利用者の皆様の来館をお待ちしています。

## 医療の発展と歴史

医療行為は先史時代から行われており、その時代の遺跡からは怪我の治療に使ったらしいギプスのようなものや、病気を取り除くために外科手術を行っていた痕跡などが見つかっています。一方、伝染病を伝搬する存在である病原菌が認識されるようになったのは、ようやく19世紀に入ってからであり、医療行為に関しては長い間、現代人が見たら逃げ出したくなるような恐ろしい方法で行われてきたものも多くありました。現在我々が悩まされている伝染病は歴史上何度となく—中世のペストから20世紀のスペイン風邪まで—発生し、時には数百万もの人々が犠牲になりました。しかし人類は医療の進歩によってこの試練に打ち勝ってきました。図書館では医療の歴史、その進歩と発達について書かれた書籍を多数所蔵しています。そのほんの一部を紹介いたします。



**医療の歴史：穿孔開頭術から幹細胞治療までの1万2千年史 / スティーブ・パーカー 著；千葉喜久枝訳，創元社，2016.**  
請求記号:B490.2-141(横浜)

先史時代の医術から幹細胞治療まで、人類が発明した医療の発展の歴史が豊富な図版と親しみやすい文章とでつづられている。

**De Humani, Corporis Fabrica / Andreas Vesalius. (Reprint)**  
Originally published, 1543.  
請求記号:A490-63



“近代解剖学の父”と呼ばれるヴェサリウスが1543年に著した『人体の構造についての七つの書』（ファブリカ）は、その後の医学、解剖学の発展に多大な貢献をした。

(資料サービス課 荻原 直子)

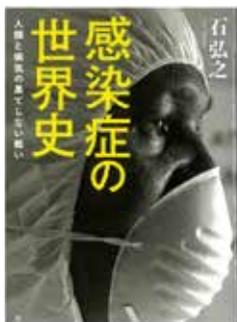
**50の事物で知る(図説)医学の歴史 / ギル・ポール著；野口正雄訳 原書房，2016.**  
請求記号:B490.2-147(横浜)

モノという側面から医学の進歩と歴史を語る。右の写真は「モートンのエーテル吸入器」(麻酔薬吸入器) 1846年



2014年発行。本書では、世界は今後増々感染症の脅威にさらされるようになる」と警告を発している。

**感染症の世界史：人類と病気の果てしない戦い / 石弘之著，洋泉社，2014.**  
請求記号:B490.2-134(横浜)



# 図書館からのお知らせ

新型コロナウイルスに関する大学全体の対応に合わせて開館時間や使用可能閲覧席の制限などを行っております。状況の変化に合わせて随時変更しますので、必ず図書館ホームページをご確認ください。

図書館ホームページ：

<https://www.kanagawa-u.ac.jp/library/>

※横浜図書館（15号館）は2022年3月までの予定で改修工事をおこなっています。15号館書庫の資料については3号館仮設図書館カウンターで書庫出納をお申込みいただければ利用できますので、ご利用下さい。

## 共通

3キャンパス図書館ともご利用の際は学生証が必要です。

3キャンパスの図書は、相互に取り寄せができますので、OPACで図書の所蔵館を確認して予約ボタンからお申込み下さい。

新型コロナウイルス感染対応として、学生に対する図書の貸出・返却配送サービスを行っています。詳細はホームページをご確認ください。  
([https://www.kanagawa-u.ac.jp/library/news/details\\_21538.html](https://www.kanagawa-u.ac.jp/library/news/details_21538.html))

## 編集後記

今年4月、みなとみらい図書館が開設され本学は横浜、平塚、みなとみらいの三つの図書館を持つことになった。開設するにあたり、みなとみらい図書館の蔵書を充実させるため横浜、平塚両キャンパスから膨大な量の本を引っ越しさせ、新たに多くの本も購入した。現在、真新しい図書館にはきれいに本が並べられている。

本学図書館の蔵書のほとんどは、一定の基準に従って選ばれた「選書」を経て購入されている。学部学科や研究組織などから選ばれた本を購入し、蔵書とすることで教育、研究に必要な資料が図書館に揃うようになる。私達図書館員も選書をする。書店からのカタログや持ち込まれた本を見、図書館員ならではの勘も働かせて本を選ぶ。そうして購入された本は、破損や紛失、その他正当な理由によって処分されない限りは、永久にこの図書館に保管されることになる。

我々図書館員が選書する際に考えなければいけないのは、その本を必要とする利用者があるか、その本はこの図書館で永久に保管する価値があるのか、という点である。自分はいいい本だと思っても、この条件には合わないから購入をあきらめるという場合もある。そうやって選んだ本には少なからず愛着を感じるもので、誰かがその本を借りて読んでいると知ったときには嬉しくなる。

このところ、大学内で本が見捨てられているのを何度か目にした。劣悪な保管、何の本を持っているかもわからない、置き場所に困った、そちらで何とかしてください…。自分達が選んで買ってもらった本への冷たい仕打ち。図書館員にとって心の痛む光景である。  
(N.E.)

## 今号の表紙

### 神奈川大学みなとみらい図書館 (エントランス)

2021年4月オープンのみなとみらいキャンパス図書館。建物全体に本を配置したみなとみらいキャンパスの中心となる「知の拠点」である。研究のためのみではなく、見て楽しむ本も多く所蔵されている。詳しくは2-3ページに記載。

